

2nd Circular

2025 年 9 月 10 日



テーマ：理性と希望の平和な時代を拓く

—理性的ルールにもとづいた社会をめざして—

開催日時：2025 年 12 月 6 日（土）～12 月 7 日（日）

会 場：中央大学多摩キャンパス（八王子市東中野 742-1）

主 催：日本科学者会議東京支部

※日本科学者会議 60 周年記念行事の一環でもあります

第 23 回東京科学シンポジウム 2nd サーキュラー発行にあたって

実行委員会事務局長 佐久間英俊

7 月 10 日付で発行した 1st サーキュラーで、私たち実行委員会は今回の東京科学シンポジウムのメインテーマを「理性と希望の平和な時代を拓く—理性的ルールにもとづいた社会をめざして—」とし、12 月初めに中央大学で開催することを決め、分科会の開設を呼びかけました。

その後の 2 か月間を振り返ると、7 月の参議院選挙で国民の審判が下り与党は過半数割れとなる一方、参政党など右派が台頭しました。8 月には被爆・敗戦 80 年を迎え、その前に被団協・原水協・原水禁の 3 団体が初の共同アピールを発表しました。実質賃金の減少が続く中、最賃上げは微増にとどまっています。気候変動の影響が記録的猛暑と集中豪雨が猛威を振るいました。世界ではロシアの力による国境線引きやイスラエルのガザ市民に対する抑圧に反対運動が強まっています。こうした情勢は、今回のシンポのテーマが世界と日本が直面している時代の要請に合致していると同時に、科学が解明すべき課題が山積していることを示していると考えます。

さて、1st サーキュラーの分科会設置呼びかけに応じて 16 件の申請があり、設置が認められました。また特別報告では、戦争による市民の苦難や民族問題などをテーマに、最適な講師 2 名に依頼して準備を進めています。

例年通り今回のシンポでも、ポスターセッションや展示コーナー、懇親会は勿論行いますが、演奏者を招いた音楽コンサートを事前企画として開催します。ご期待ください。

この 2nd サーキュラーでは、主に分科会の発表者を募集します。多くの会員が臆することなく分科会発表に応募され、問題意識や日頃の研究の成果、現実の問題解決に向けた運動や取り組み

などを披露いただきますようお願いいたします。なお私たちは、このシンポジウムを市民とともに成功させたいと考えています。非会員の参加も歓迎しますので、周りの市民も誘ってご参加ください。

1. 特別報告

12月6日(土)午後

1. 早尾貴紀さん(東京経済大学教授)

「パレスチナ・イスラエル問題をどうみるか」(仮)

2. (現在交渉中)

「国連の難民支援や紛争処理からみた世界」(仮)



2. 分科会

12月6日(土)午前、7日(日)午前、午後

【1】分科会名: 「力による平和」論でない新しい平和論を構築するために語り合おう

- ・設置責任者: 金子勝 (立正大学分会)
- ・連絡先: walkbeforeme171 あ gmail.com (担当: 田島) ※メールを送る際は「あ」を「@」に変更
- ・設置趣旨: 覇権国家アメリカを中国から守るために、トランプ大統領政権が打ち出した「力による平和」や「アメリカ・ファースト」は、大国の侵略戦争や核軍拡を容認し・正当化し、「第三次世界大戦(第一次世界核戦争)」の道を拓くことを可能とするイデオロギーである。

アメリカと2024年4月10日に「軍事的グローバル・パートナーシップ」を結んだ日本国の国家は、中国との戦争を前提条件にして、国のすべての分野を軍事化する「軍国主義」を推進している。

「第二次世界大戦」後の国際連合憲章に基づく世界平和秩序と日本国憲法に基づく日本平和秩序が壊されようとしている今日、「力による平和」論ではない新たな平和論を構築するために、みなさまと語り合いたいと考えている。

【2】気候危機・エネルギーと市民の生活改善

- ・設置責任者: 佐川清隆 (東京大学分会)
- ・連絡先: kinomotosakura0401 あ hotmail.com ※メールを送る際は「あ」を「@」に変更

・**設置趣旨**：気候危機は深刻な被害をもたらしている。更なる電力需要増につながるデータセンターなどの建設は近隣住民にも不安を与えている。他方、気候危機の解決に重要な太陽光発電や風力発電への近隣住民による反対も少なくない。

加えて、電力・エネルギー価格の高騰が人々の生活を苦しめている。海外では「エネルギー貧困」の解決は重要な研究・政治課題であるが、日本では注目が低い。

本分科会は JSA-Climate ACT と共催で、こうした気候危機・エネルギーに関わる課題を、住民の生活改善を重視する立場から議論する。



【3】科学技術の現状批判—日本の科学・技術の健全な発展のための課題 part17—

・**設置責任者**：矢作英夫（武蔵野通研分会）、長田好弘（武蔵野通研分会）、久志本俊弘（大阪支部）

・**連絡先**：to4ksmt あ yahoo. co. jp（久志本） ※メールを送る際は「あ」を「@」に変更

・**設置趣旨**：政府の「大軍拡予算」「秘密特許制度法」「産官学軍体制」に加えて、昨年「経済安保情報保護法案営業秘密保護法」制定、学術会議法の「解体」再編成などとともに、軍事研究費の激増、軍需関係の企業活動も活発化している。また、気候危機対策、コロナパンデミック（SARS-CoV-2）対応、リニア新幹線建設などでの、政府や大企業の対応は、科学・技術の知見を無視したまま、国民を路頭に迷わしている。原発問題では「将来は廃止」という言葉すらなくして、「既設の再稼働と更新、新型開発」として、国民の願いとは逆の方向へ転換している。また、PFAS問題、生成AI問題、マイナカードでの「デジタル化社会」強行など、これらは生活の場で多くの問題を引き起こし、科学技術の視点からの現状批判もますます重要になりつつあり、本質的な議論が求められている。これらは、国民の喫緊の課題であり、広範な国民各層との共有が重要であり、JSAの情報発信の在り方も含めて論議したい。民間技術者研究者問題委員会の責任で、前回は昨年の第25回総合学術研究集会の分科会として実施し、今回はその継続でシリーズ17回目として実施する。

【4】科学・技術サロン—日本の科学・技術の現状とロマンを語る part18—

・**設置責任者**：長田好弘（武蔵野通研分会）、松永光司（武蔵野通研分会）

・**連絡先**：matsunaga_mitsushi あ hotmail. com（松永） ※メールを送る際は「あ」を「@」に変更

・**設置趣旨**：政府は今年6月、日本学術会議を現在の「国の特別機関」から「特殊法人」へ移行させる「日本学術会議法人化」法案を、日本学術会議の自身の強い懸念や異議、科学者や市民の反対を無視して、賛成多数で成立させました。これは日本学術会議創設以来の「軍事研究は行わない」決意を蹂躪し、御しやすい体勢への変質を狙ったもので、容認できません。

また先の参議院選挙では、外国人差別や女性差別を煽り、果ては日本の核武装を煽るフェイクと差別、排外主義の言説が、参政党ら一部候補者によって大量に振りまかれ、選挙結果にも影響

を及ぼしました。社会の民主的な発展のために、デマと差別の蔓延を許さない取り組みが求められます。

これらは、利用が急速に広がるインターネット、生成 AI など先端技術をどう社会生活に組み入れるか深い議論を求めています。いまとりわけ科学の正しい発展のための研究条件の確保が必要です。個々の問題で意見の相違が生じようとも、リスペクトをもって率直な意見交換をおこないましょう。

【5】生成 AI の社会生活への浸透は何をもたらすのか

- ・設置責任者：米田貢（個人会員）
- ・連絡先：myoneda330 あ gmail.com ※メールを送る際は「あ」を「@」に変更
- ・設置趣旨：生成 AI が大規模言語モデルを開発したことによって、様々な AI が人間社会のあらゆる領域に浸透しつつあります。産業革命を経て現代では、人間の肉体的労働（主に手足の使用に基づく）の補完・代替を行う機械が労働過程だけでなく人々の市民生活にも広範囲に浸透しています。生成 AI を駆使する現在の ICT 革命は、人間の知的労働（主に脳の使用に基づく）を社会生活のあらゆる領域で保管・代替しつつあります。問題は、それを利用する多くの人々が、AI との「会話」を通じて AI を機械ではなく「心を持った人間」と錯覚する状況が生まれていることです。この事態を、科学者としてどう考えるべきかを議論したいと思います。

【6】リニア中央新幹線の現状と課題

- ・設置責任者：橋本良仁（高尾分会）
- ・連絡先：cap-mt.takao あ nifty.com ※メールを送る際は「あ」を「@」に変更
- ・設置趣旨：2014年7月、日本科学者会議は、「リニア中央新幹線計画の撤回・中止を求める」声明を発表した。JR 東海は東京・名古屋間の開通を 2027 年度としていたが、建設の進捗は 1/3 にとどまっている。昨年 JR 東海は開通年度を 2034 年度以降と修正したが、全線の 9 割を占めるトンネル掘削は、当初予想した以上の困難さに遭遇している。

これまで、リニア問題研究委員会は、総合学術研究集会や東京科学シンポジウムでリニア分科会を設置し、リニアに関わる研究者や市民団体の意見交換の場としてきた。

リニア建設の現状や問題点を明らかにし、今後の課題を探りたい。

【7】ポスト冷戦後の国際政治経済秩序をめぐって

- ・設置責任者：森原康仁（個人会員）
- ・連絡先：ya.morihara あ gmail.com ※メールを送る際は「あ」を「@」に変更
- ・設置趣旨：今年 2025 年 1 月に「トランプ 2.0」が始動して 1 年弱経過した。その衝撃の大きさは広く知られるところである。①20 世紀初頭の「勢力圏」の思想を彷彿させる主張、②第二次大戦後蓄積されてきた制度や規範を根底から覆すような発言、③DEI（多様性・公平性・包摂性）を目の敵にした国内政策など枚挙にいとまがない。これらは、社会の全領域に及んでおり、しか

も現在進行形なので総合的・学際的な検討が不可欠である。もっとも限られた時間内ですべてを扱うことはできない。そこで、本分科会では、とくにトランプ 2.0 が戦後国際政治経済秩序をどのように変革しようとしているのかを中心に、トランプ 2.0 のインパクトを学術的に議論する場を提供したい。

【8】激動する世界と日本経済

- ・設置責任者：村上研一（中央大学分会）
- ・連絡先：murakami あ tamacc.chuo-u.ac.jp ※メールを送る際は「あ」を「@」に変更
- ・設置趣旨：第2次トランプ政権が発足し、各国に対する一方的関税措置、また国際紛争への介入など、自由貿易・グローバル化を基調とする国際関係が一変している。日本経済は数年来の円安と物価上昇、トランプ関税、また台頭する中国産業や米中対立によって翻弄され、人々の生活の悪化が続いている。本分科会では、このように激動する情勢の中での世界経済そして日本経済の諸相に関して、報告と討議を通じて検討したい。

【9】新自由主義が横行する福祉分野での小規模福祉事業所の経営実態と労働者の賃金・労働条件

- ・設置責任者：米田貢（個人会員）
- ・連絡先：myoneda330 あ gmail.com ※メールを送る際は(at)を@に代えてください
- ・設置趣旨：日本では、市場・利潤原理の新自由主義の政治が社会福祉・社会保障の分野で横行し、社会的弱者を救済・支援する福祉法人は経営悪化に追い込まれ、小規模・零細の多くの事業所が倒産・廃業している。これらの福祉法人では動労者の多くが非正規雇用形態で働いており、彼らの賃金水準は低い。介護職員の賞与込み給与は 29.3 万円であり、全産業平均 36.1 万円より月額で約 7 万円も低い。この低賃金に劣悪な労働条件が加わり、介護職員不足は 2025 年度で 32 万人不足している。本分科会では、労働者の基本的権利を守りながら社会的弱者の支援・救済のために懸命な営業努力を行っているいくつかの事業所から、経営実態と労働者の賃金・労働条件を報告もらい、問題打開の方途を探る。

【10】リレートーク『東京都政の論点』—赤ちゃんが大人になるまで—

- ・設置責任者：鈴木享子（都政研究会）
- ・連絡先：m.w.skyok5.kamot あ gmail.com ※メールを送る際は「あ」を「@」に変更
- ・設置趣旨：8つのテーマで、専門から東京都政の論点を報告・提起してもらう。以下、例示です。
 1. 「チルドレンファースト」「無痛分娩」を推進する東京都と背景にある助産師・助産学の課題
 2. 児童相談所をめぐる現状と問題
 3. 学校統廃合反対の闘い・現段階と東京
 4. 高校無償化の対象は都民だけでいいのか

5. 大学生に対する給付型奨学金設計への要求づくり
6. 東京都で暮らすには 25歳の生計費調査
7. 全国最賃・東京最賃、東京都への要求の出し方
8. 子どもの未来と2028都知事選挙

【11】新自由主義研究会×院生企画「冬の学校」——新自由主義に対抗する新たな展望

- ・設置責任者：小笹礼史（中大院生分会）
- ・連絡先：a19.776j あ g.chuo-u.ac.jp ※メールを送る際は(at)を@に代えてください

・設置趣旨：1970年代以降、世界的に台頭した新自由主義は、規制緩和や市場原理の拡大を通じて、経済、社会のあり方を大きく変容させてきた。日本においても、雇用、福祉、教育など、様々な分野で新自由主義的政策が浸透し、格差拡大や社会的排除といった問題が深刻化している。

本分科会は、このような現状認識を出発点に、院生を中心とする報告と議論を通じて、新自由主義に対抗する新たな社会のあり方を模索することを目的とする。



【12】軍学共同の現段階と対抗運動の課題

- ・設置責任者：多羅尾光徳（東京農工大学分会）
- ・連絡先：tarao あ cc.tuat.ac.jp ※メールを送る際は「あ」を「@」に変更
- ・設置趣旨：2024年には防衛イノベーション科学技術研究所が発足し、2025年6月には防衛省に防衛科学技術委員会が設置されるなど、軍学共同の動きが着々と進められている。それに対応するがごとく、経済安全保障重要技術育成プログラム（K Program）や安全保障技術研究推進制度に大学・国立研究機関から多数の応募があることに示されるように、軍事研究や軍事技術への応用が強く疑われる研究に対する科学者の警戒感が低下してきているように見える。「なぜ軍事研究に手を出してはならないか」をあらためて問い直す必要があるのではなからうか。近年の軍学共同の動きを総括し、平和のための学問・研究のために何をなすべきかを語り合う場としたい。

【13】大学の若手研究者による研究・運動交流

- ・設置責任者：佐川清隆（東京支部若手教員有志）
- ・連絡先：kinomotosakura0401 あ hotmail.com ※メールを送る際は「あ」を「@」に変更
- ・設置趣旨：若手教員の交流促進のため、2024年度から東京支部の有志で企画をしています。2025年2月にはオンラインで「若手教員の生活を語り合う」を実施し、研究・教育やキャリアパス、子育てなど様々なことを語り合いました。科研費ピアレビューも進行中です。改めて、若手教員が大学改革の下で様々な困難がある中でも、多様な魅力的な研究や社会運動を進めていると実感しています。本分科会は、そうした大学における若手の研究や教育の鋭い問題意識を交流する場とします。概ね45歳以下の大学教員・研究者の方からの発表をお待ちしています。

【14】非正規教職員の労働運動のこれからを展望して Part3

- ・設置責任者：衣川清子（個人会員）
- ・連絡先：kinu_k716 あ yahoo.co.jp ※メールを送る際は「あ」を「@」に変更
- ・設置趣旨：これまで2回の当分科会では、雇用安定に向けての非正規教職員自身の運動について現場からの報告を受け、議論してきた。無期転換を後押しする裁判所判断（専修大学最高裁判断や大阪羽衣国際大の大阪高裁判決）の出現は歓迎すべきものだったが、後者のその後の最高裁の差し戻し決定により、事態は予断を許さないものとなっている。こうした裁判の現状や、この間のストライキをはじめとする運動を振り返り、今後の展望を議論したい。

【15】日本の高等教育問題を考える

- ・設置責任者：佐久間英俊（中央大学分会）
- ・連絡先：hsakuma001k あ g.chuo-u.ac.jp ※メールを送る際は「あ」を「@」に変更
- ・設置趣旨：日本の高等教育の迷走が止まらない。軍備拡張とは裏腹に政府は教育予算を抑制・削減し、学園や研究機関に慢性的な資金不足を招いた。学生は高学費に苦しみ、教職員は不毛な競争で分断され疲弊している。政策的な自治破壊が学園トップによる専断的運営を強め、混乱に拍車をかけている。政府は自らの失政責任を現場に転嫁するため改悪が止まらない。当分科会は日本の高等教育が抱える問題を様々な側面から考察し、解決策を検討する。

【16】日本科学者会議における会員の人権尊重の検討～ハラスメントを考える～

- ・設置責任者：中島明子（はづきの会）
- ・連絡先：mamanotanuki あ yahoo.co.jp ※メールを送る際は「あ」を「@」に変更
- ・設置趣旨：東京支部では2003年に「東京支部会員の多様性の尊重と人権保障に関する宣言」をまとめた。「マイノリティの会員が安心・安全に活動できる組織づくりとハラスメント相談委員会の設置の提案」がなされ、多様性検討委員会を設けてまとめたもの。相談窓口の設置等は今後の課題としたが、ハラスメント問題が発生した現在、ハラスメントの正確な知識と、JSAだからこそ有効な防止策と問題が起こった際の対策について検討したい。

※以上16の分科会ですが、今後さらに追加する可能性もあります。JSA 東京支部のホームページで確認ください。

3. 分科会の発表者募集 10月15日までに設置責任者へ申込み

分科会への発表申込み：

設置責任者宛てに原則として電子メールで申し込み下さい。申込用紙は次ページにあります。

日本科学者会議東京支部ホームページ (<http://jsa-tokyo.jp/>) からダウンロードできます。

申込先：各分科会の設置責任者（上記「2. 分科会」にある設置責任者の「連絡先」欄を参照）

発表申込みの締切日：10月15日（水曜日）＜厳守＞

4. 発表者の予稿提出 11月5日（水曜日）＜厳守＞

形式：A4判 2ページ以内で、テンプレートで形式を統一します。（原則として Word 使用）統一形式のテンプレートは、日本科学者会議東京支部のホームページにあります。これに上書きしてください。形式を満たさない原稿は掲載を認めないことがあるので注意してください。

送付先：23rd-kagaku あ jsa-tokyo.jp ※送信時は「あ」→「@」

※予稿ファイルをメールに添付ください。

予稿の提出締切日：11月5日（水曜日）＜厳守＞

※締切日を超えた場合、予稿の当該箇所は空白となりますので、十分にご注意ください。

5. 予稿集を冊子で発行

予稿集は電子媒体で発行しますが、別途紙媒体（冊子）が必要な場合は、実費&送料で頒価は2500円）となります。10月末日までに実行委員会までお申し込みください。

6. 開催日程と主な企画

	午前 10:00～12:15	午後Ⅰ 13:15～15:30	午後Ⅱ 15:45～18:00	午後 18:00～20:00
12月6日（土）	分科会1	開会式 特別報告Ⅰ 特別報告Ⅱ（～17:30）		懇親会
12月7日（日）	分科会2	分科会3	分科会4	

注）上記は今回のシンポジウムの主な企画概要です。閉会式や新たな企画が加わるなど細部は若干変更になる可能性があります。

7. ポスターセッション、展示を募集します

1) ポスターセッション

○統括設置責任者：日本科学者会議東京支部

○設置趣旨：東京支部の分会、個人会員、若手・大学院生、女性研究者などの活動概要を広く会内外に紹介する。また関東甲信越地区にも呼びかけ、可能な範囲で活動の促進と親睦をはかる。

2) 展示コーナー（シンポジウム期間中開催）

2年前の第22回シンポジウムでは、日本キューバ友好、9条科学者の会の取り組みなどの展示と、キューバ音楽の演奏などを行いました。今回も同様の取り組みを予定しています。

8. 事前企画：音楽コンサート 11月26日

今回は事前企画として、平和のための音楽コンサートを開催する予定です。

日時：11月26日（水）14:30～16:30

会場：パルテノン多摩 オープンスタジオ（定員100名）

住所：東京都多摩市2丁目35番地 <https://www.parthenon.or.jp>

アクセス：京王相模原線、小田急多摩線、多摩都市モノレール「多摩センター駅」から徒歩5分

内容：①いのちの音色一歌とギター演奏・被爆体験の朗読（ミューズの里：中村里美シンガーソングライター/映画製作・プロデューサー・監督、伊藤茂利ギタリスト・作曲家/映画製作・音楽監督・プロデューサー）、②トーク〔交渉中〕

連絡先：参加希望者は、**事前に実行委員会ホームページで参加登録**を行ってください

参加費：無料 ※当日会場で行う募金にご協力ください

申込締切：11月15日（土） ※売り切れ御免

9. シンポ参加費は2000円、募金にご協力を

1) 参加費

	シンポジウム参加費	懇親会費
一般	2000円	3000円
院生・学生	1000円	1500円

2) 募金

シンポジウムには特別報告講師謝礼、印刷費、宣伝費、アルバイト料などの費用がかかります。

シンポジウム成功のため1口1000円の募金にご協力ください（何口でも結構です）。

振込はJSA東京支部ホームページにある東京科学シンポジウムの専用コーナーより。

今後のスケジュール

- 9月10日 2nd Circular 発行
(開設する分科会を公表。分科会発表者を募集)
- 10月初め 参加登録受付開始
(懇親会の申込み締切は11月30日(日)24時)
- 10月15日 分科会発表者の応募締切
- 10月31日 予稿集(冊子)の申込み締切
- 11月5日 分科会発表者の予稿提出締切(期日厳守)
- 11月10日 3rd Circular 発行
(最終プログラムを公表。参加者を募集)
- 11月末日 懇親会参加登録締切
- 12月初め 予稿集発行
- 12月6日~7日 第23回東京科学シンポジウム

※東京科学シンポジウムは東京支部の今年最大の企画であり、会員が日頃の研究成果を発表する場でもあります。初めての方も歓迎します。会員の皆さん、どしどし分科会に発表を申し込みください。

第23回東京科学シンポジウム 分科会発表申込み用紙

2025年__月__日 (受付月日: __月__日 受付番号: _____)

(ふりがな) 名 前	
住 所	〒
連 絡 先	e-mail : Tel :
希望分科会	
タイトル	
発 表 者 名 (所属 or 肩書き)	

概要(200字~400字)

分科会発表の申し込みは設置責任者宛てに原則として電子メールで申し込みください。(メールアドレスは上記「2. 分科会」の当該分科会欄をご覧ください)

上記申込用紙は、日本科学者会議東京支部ホームページ (<http://jsa-tokyo.jp/>) の東京科学シンポジウム専用コーナーからダウンロードもできます。電子メールが不都合な場合は、実行委員会宛てに、申込用紙に必要事項を記載の上、FAX (または郵送) で送ってください。

**JSA 第23回
東京科学シンポジウム**
2025年12月6-7日
日本科学者会議東京支部

私たち実行委員会は、市民とともに
シンポジウムを成功させたいと考えています。
また、皆さんにご満足いただけるよう
企画準備に努力しています。
多くの皆さんのご来場をお待ちしています。

第23回東京科学シンポジウム実行委員会

実行委員長：米田貢（支部代表幹事）

事務局長：佐久間英俊（支部事務局長）

実行委員：青木和光（支部常任幹事）、江川章（支部幹事）、衣川清子（支部常任幹事）、佐川清隆（支部幹事）、佐藤和宏（支部幹事）、多羅尾光徳（支部常任幹事）、堂野崎衛（拓殖大学分会）、中島明子（支部代表幹事）、松尾一郎（支部幹事）、森原康仁（支部常任幹事）、森山洸（支部常任幹事）

2025年9月7日時点

日本科学者会議東京支部 第23回東京科学シンポジウム実行委員会

〒113-0034 東京都文京区向丘 1-1-17 タカサキヤビル 5階

Tel/Fax：03-5615-8703

e-mail：23rd-kagaku あ jsa-tokyo.jp ※送信時は「あ」→「@」
